

夜須高原ファミリーキャンプ④

～冬を楽しむファミリーキャンプ～

【実施報告】

- 1 趣 旨 手軽に自然体験を楽しみたい家族を対象として、冬の夜須高原の自然に触れ、活動プログラムや家族間の交流を通して、自然体験の普及啓発を図ることを目的として実施する。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 期 間 令和6年2月3日（土）～4日（日） 1泊2日
- 4 場 所 国立夜須高原青少年自然の家
- 5 参加者 32名（10家族）
- 6 活動の様子 別紙参照

7 感 想

①プログラムに関すること

- ・今まで館内で見逃していたところに気づくなど、新発見がありました。けっこう難しく、大人も夢中になりました。
- ・なかなか豆まきはできないのでいい体験になった
- ・おもちつきをして、できたてのおもちを食べられてよかったです。たき火もふだんなかなかさせられないので、子どもたちも喜んでいました。

②事業全体に関すること

- ・準備、片付けなど、子どもが小さい親だけでは、大変なところを補ってくださって、気軽にキャンプ（体験）を楽しめました。お兄ちゃんお姉ちゃん、ボランティアさん、スタッフの方々、いろんな方とふれあい交流できてよい経験になりました。
- ・ゆとりある進行で、自由時間多くて、ボールや遊具であそんだり、探検したり、家族でもゆったり楽しめました。
- ・旗系の立候補、ふだんは自分から出ていくタイプではないのですが、雰囲気か背を押したのか、自分から手を挙げ、じゃんけんでは負けましたがよい経験になったと思います。次回チャレンジできたらと思います。

8 成 果

本事業は、季節柄外に出ることが少ないため、たき火で冬の寒さを楽しみつつ、体験することが少なくなった豆まきや餅つきを取り入れ計画した。

参加者アンケートより「なかなか豆まきはできないのでいい経験になった」や「おもちつきをして、できたてのおもちを食べられて良かったです。たき火もふだんなかなかさせられないので、子どもたちも喜んでいました」といった意見をいただいた。これは、本事業が参加者にとって、普段体験することの少ない季節の行事を経験する入口となったといえるのではないだろうか。

また、施設側としては「家族同士での交流」も目的としており、活動と活動の間にゆとりの時間を取り、自由時間を設けた。次第に子ども同士が仲良くなり、親同士のコミュニケーションが始まり、といった交流が見られるようになった。

9 課 題

本事業においては、募集１０家族に対し１８家族の申込があり、ニーズがあるということが分かる。一方で、広報ツールが当施設ＨＰへの公開及びＬＩＮＥ登録者への広報のみに留まっていることから、今後はよりinstagramも含めて周知や募集などの広報を工夫していくことが一つの課題である。

また、コロナ禍の間中止していた餅つきを行ったが、経験していない職員も多く、準備やレストランとの連携にもたつきが生じたことから、活動を再開するにあたって、研修や打合せなどを密に行っていく必要がある。

6-1. 館内ビンゴ、たき火に使用する火吹き竹作り、焚き付け作り



6-2. 豆まき



6-3. 焚き火



6-4. テント設営・撤収

